



「短歌を学んで短冊を書こう」

小学生短歌優秀作品発表!

先日、各教室で七夕イベントが開催されました。今年も一つ一つの歌のレベルが非常に高く、生徒たちの成長が感じられる感慨深いイベントとなりました。皆さん、一生懸命歌作りに取り組んでいただき、ありがとうございました。

短歌審査委員会 審査委員長 関野

特賞(一名)

☆帰宅して すぐにキッチン おむかう母

コトコトジュージュー ただよう香り

【受賞者 前田 結衣さんのコメント】

すぐくうれいす。何日もかけてがんばってよかったです。

【流山おおたかの森教室長 佐々木より】

お母さんへの感謝の気持ちが伝わる、とてもいい歌ですね!受賞おめでとう!



金賞(一名)

☆上見れば 群青色の 広い空

願いの数だけ 星は輝く

【受賞者 畔上 結菜さんのコメント】

まさか選ばれるなんて思っていませんでした。うれしかったです。

【江戸川台教室長 櫻村より】

群青色の空の向こうにある情景に、たくさんの人の願いを重ねて、空を見上げてみたくなる素敵な歌です。受賞おめでとう!

銀賞(二名)

☆理科室の 人体模型 はだかんぼ

おしりぺんぺん 楽しむ私

【受賞者 花岡 泉美さんのコメント】

まさか自分のが選ばれるとは思いませんでした。

【東葛飾中コース 片岡より】

素材の選択、着眼点、言葉のあっせんなど、全てがユニーク!

☆兄の受験 努力の姿 たくましい

受かりますよう いつでも願う

【受賞者 多田 莉桜さんのコメント】

当選してすごくびっくりしました。兄が受験に受かりますように。

【パーソナルおおたかの森教室長 矢上より】

普段から仲の良いことが伝わってくる、とても素敵な歌ですね。多田さんの思いが伝わることを願います。

銅賞(八名)

☆会いたいな あげおのおうち そぼとそぶ

遊んで楽しい 思いでづくり

【受賞者 若林 蓮香さんのコメント】

選ばれて 恐悦至極 胸いっぱい

【我孫子教室長 高寺より】

ひらがなにより、視覚的にも温かみを感じられる素敵な歌ですね。

☆夏の夜空 見上げてみたら 流星群

友達と祈る 最後の願い

【受賞者 長島 仙花さんのコメント】

まさか受賞するなんて思ってたのでとてもうれしいです。

【江戸川台教室長 櫻村より】

最後の願いが流星群に届きますように!受賞おめでとう。

☆初夏の風 ホールに響く 残響音

ピアノの音色で 勝利をつかめ

【受賞者 武田 陽さんのコメント】

銅賞が取れてうれしいです。実現できるようにピアノもがんばります。

【柏教室長 五日市より】

風、ホールの緊張感、本人の決意、残響音という細部。実に想像が膨らみます。ピアノも頑張ってください!

☆くつしたが 片っぱだけに なっていた

もう片っぱは お散歩してる

【受賞者 下村 心春さんのコメント】

受賞でき、とても嬉しいですよ。これからはがんばります!

【新柏教室長 松尾より】

擬人法をうまく使った生活感あふれる下村さんならではの歌ですね。受賞おめでとうございます。

☆小学校 もうじき卒業 さみしいが

最後は笑顔で 終わると願う

【受賞者 佐野 芽衣さんのコメント】

選ばれた時は驚きました。とてもうれしくて思い出に残りました。

【流山おおたかの森教室長 佐々木より】

卒業まで半年、笑顔で終われるよう、いい思い出を作りましょう!受賞おめでとう!

☆ライバルに 負けなために 目指すのは

我孫子せんぱつ ベストをつくす

【受賞者 佐々木 海大くんのコメント】

受賞してとても嬉しいです。この力を活かしていきたいです。

【パーソナル我孫子教室長 上田より】

これからの活躍を期待しています。勉強もベストを尽くしてほしい!

☆七夕に 必ず食べる ちらし寿司

今年は見たい 天の川

【受賞者 金子 廉くんのコメント】

あまり自信がなかったのですが、賞を頂けてとても嬉しいです。

【パーソナル柏教室長 山崎より】

ちらし寿司と天の川、星の瞬きが目に浮かぶような作品です。

☆夏休み かぞくでキャンプ 楽しいな

夜には星と 花火が光る

【受賞者 酒巻 和夏さんのコメント】

賞を取れると思っていなかったもので、とてもうれしいです。

【パーソナルおおたかの森教室長 矢上より】

今年は色々と活動ができる夏休みなので、和夏さん自身が楽しみにしている、そんな思いがよく伝わる歌ですね。



新たな言葉との出会い

「泣きっ面に蜂」ということわざがあります。不幸に不幸が重なるという意味ですが、それを知らなくても例えば泣いている友達が蜂に刺された姿をイメージすれば、大まかな意味は推察できそうですね。

想像しやすい場面を成句として残すことで、知識や教訓として会得しやすいつころこそ故事ことわざの良さと私は思います。「あなたがやっていることはまるつきり無駄だよ」と言われるよりも、「それじゃあのれんに腕押しをしているようなものだよ」と言われた方が、自分のやっていることの無駄さ加減に気付きやすい気がしませんか？

さて、普段は理系科目を担当している私ですが、小さい頃はことわざや故事成語などを学ぶのが大好きな、どちらかというと文系志向の子どもでした。当時の愛読書は柔らかなタッチでことわざの様子をコミカルに描いた五味太郎先生の「ことわざ絵本」で、覚えてたのことわざを得意げに友達に教えていたあの日々は、今思えば私が塾講師という仕事を志した原体験だったのかもしれない。

絵本から児童文学、そして小説へと自分の興味の矛先が大人びていくにつれ、故事ことわざへの熱もだんだんと冷めていったのですが、ここ最近になって再び私の中で故事ことわざブームが訪れています。きっかけは本棚で眠っていた四字熟語の辞典がたまたま目に留まり、せっかくだし試しに読んでみようという気まぐれからだったのですが、読み進めていくと元来持っていた故事ことわざ好きの血が騒ぎだし、新た

に覚えた四字熟語を誰かに話したくてうずうずしている今日この頃です。相変わらず話したりこの性分、まさしく三つ子の魂百までというやつですね。

四字熟語の中には誠心誠意や不老不死のようにそれぞれの漢字を見れば意味が伝わるものもありますが、反対に漢字の意味だけでは四字熟語そのものの意味が分からないようなものもあります。その好例が握髮吐哺(あくはつとほ)という四字熟語です。握髮が髪の毛を掴む、吐哺が食べている最中のご飯を吐き出すという意味なのですが、実はこの四字熟語は「才能豊かな人材を確保するのに躍起になること」という意味があります。これだけ見ると支離滅裂もいところなのですが、幸い四字熟語によつては出典といういつどこでどのようにこの四字熟語が生まれたかが明記されていることがあります。この握髮吐哺も出典が明らかになってるので一緒に見てみましょう。



二〇〇〇年以上前の中国で書かれた「韓詩外伝」という書物によると、周公という政治家の発言で生まれた言葉のようです。周公が言うには「私は高い身分にいるが、それでも洗髪中でも優秀な人物が会いにくれば濡れた髪を握って面会し、食事中に優秀な人物が会いにくれば飯を吐き出してでも優秀な人物に会うことを優先する。」とのこと。周公が生きた時代が戦乱の世だったことを考えると、この優秀な人物に対する執念深さというのでも自分の命を守るためと考えたら合点がいくでしょう。たった四字の漢字に周公という人物の強い思いが息づいているのが感じられたかと思えます。

先ほどことわざの良さを想像しやすいつかりやすさと述べましたが、四字熟語は意味の分りにくい方が成り立ちまで気になる分かつて興味をそそられます。

普段何気なく使っている四字熟語でも、出典を辿ってみれば思いがけない誕生秘話が隠されているかもしれません。皆さんも新たな言葉との出会いに誘われてみませんか。まずは辞典を一ページ開くところから始めましょう。

(平野)

集団知 24

●集団知(知っている、知らないに関わらず、集団として受け入れた価値観・判断)の続きである。

●前号で「古文単語」の具体的な記憶の仕方を紹介した。高校三年生もようやくやり始めた様子である。それでも古文を必要としている生徒の半分ぐらいか。いやいや、心配である。これからも粘り強く説得していきたい。

●そもそも、高校で三年間も古文を勉強して基本的な古文単語三百余りを記憶していないとはどういうことか？学校の授業でやり方を教え、毎回五分でも記憶する作業をやらせていけば、ほとんどの生徒がクリアしていけるのに。因みにこれは、さまざまな教科についてもいえることで、歴史の年号、英単語など、毎回五分の作業で、その項目に関する記憶は、おそろしいくらいに進む。

●さて、前回、古文の単語帳の出だしの三語「ありなし」「明かし」「あかず」の三語を例としてあげたが、この三つでさえきちんといえる生徒は十%もない。かなり真面目にやっていると思える生徒でさえ、まず出てこない。

●何故、こんなことになるのか？勉強法が科学されていないことに尽きる。もちろん世の中には、勉強本があふれている。私は、おそらく百冊以上は購入して目を通してきたが、それぞれに「おっ！」と思わせる部分がいづつかある。だから購入したこと自体は無駄ではなかったと思う。しかし、どの本にも欠けているのが、

- ①「伸びない生徒がどういう風に取り組んでいるのか」の調査と分析、②「記憶のメカニズム」③「勉強するときの頭の使い方」の調査と分析である。

●かなり売れている勉強本でさえ、この欠如は共通している。「勉強法は科学されていない」と先述したが、勉強本の著者は、それなりに好成绩をとり、さまざまな工夫をした人になりがちな。そういう人でさえ、この状態だから一般の教える立場にある人が勉強法について、相当の認識と工夫をしている可能性は低い。そこで、塾の出番となるのである。塾は自分の学力や志望校に合わせて向き合ってくれ、場合によっては「肉弾戦」で身につけるべき知識や習慣を生徒が獲得するまでつき合う。生徒が知らなかったさまざまな工夫を教えてください。生徒が知らなかった。勿論、塾もピンキリだが……。

●少し視点を変えて「保護者面談」での話題を一つあげよう。「学校でお子さまの様子について担任の先生は何かおっしゃっていますか？」とときどき質問する。ほとんどの保護者はこういう返事をくださる。「ちゃんと前を向いてしっかりと聞いていますよ。」実は、ここが大問題なのである。(以下次号)

(小林)